

研究推進委員会通信

平成 30 年 9 月 12 日

9 月 8 日（土曜日）に岐阜聖徳学園大学にて日本生活科・総合的学習教育学会中部研究大会岐阜大会が実施されました。実践研究発表の内容をいくつか紹介します。

発表テーマ：スタートカリキュラムの指導観を活かした生活科の授業改善

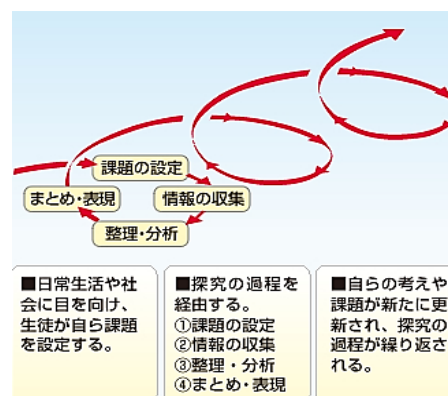
幼保小連携での考え方ですが、本校での中高連携でも同様のことがいえます。本校へ入学した生徒はゼロからのスタートではなく、すでに小学校・中学校で学校生活をすごしており、生徒がどのような経験をして、本校に入学してきたかを知ることによって高校生活を円滑にスタートさせることができます。例えば、生徒へ何か指示をするときや生徒が困難さを訴えてきたときに「中学校ではどうしていたの？」と問いかけることで、生徒がいま高校生活でどのような困難に直面しており、その解決のためにどのような支援を求めているのかの情報が得られる可能性があります。また、生徒間の関わりを深めるためには、意図的な会話の必要性が挙げられました。「〇〇くんやってみて」ではなく「〇〇くんと一緒にやってみて」といった声かけは、仲間との関わりをもたせる意図的な言葉かけになります。生徒が安心して学校生活を送るためには良好な友人関係は欠かせません。

このように、学校は「生徒が学校生活を円滑にスタートできるように意図的なカリキュラム（学校での学びすべての総称、教育課程ではありません）を組む必要がある」ということでした。このことは授業でもいえます。高度なことをいきなり教えるのではなく、小・中学校段階で学んできたことと接続することが必要かもしれません。また、継続的に実施する授業アンケート（配布プリントの下の方に書かせたり、単元ごとに記入させたりするのも良いと思います）で生徒の学びの困難さを知り、どうして欲しいか聞くことで授業改善の材料にすることができます。

学びの主役は生徒です。ぜひ、生徒の声に耳を傾けてください。

発表テーマ：地域課題解決型学習

すでに本校でも実施している内容です。ビジネスコースが実施しているクエストエデュケーションプログラム、コミュニケーションコースが実施している Good 郡上プロジェクト、ライフデザインコースが実施している梅ゼリーの商品開発が挙げられます。平成 31 年度からはじまる新教育課程では、地域産業コースと福祉・介護コースでは「地域探究」、観光・ビジネスコースでは「観光学基礎」が設置され、地域課題を主体的にとらえ、解決するための授業が開始されます。



これからは「探究」という言葉が重要だといわれます。私たち教員が「探究」する意味を知らないと生徒への指導はできません。図は、学習指導要領「総合的な学習の時間」の目標で示されている「探究のサイクル」です。ポイントは、課題や考えは更新されているということです。一方的に授業して知識を与えるだけでなく、生徒にその知識を活用する場面を持たせることで、生徒は課題に直面したときに探究をはじめるといわれています。単元ごとに1回で良いので、生徒に活用問題（この場合の活用は実社会にとのつながりを意識できるもの）を出題するような取り組みも試みてはどうでしょうか。